第12回 新川和江賞

未来をひらく詩のコンクール

創設以来最多の応募数

2月9日、市民情報センターで結城市・結城市教育委員会・（公財）結城市文化・スポーツ振興事業団主催、第12回新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～の表彰式が行われました。

新川和江賞は、名誉市民であり、ゆうき図書館の名誉館長である詩人・新川和江さんの名を冠して、結城市民情報センター・ゆうき図書館が開館五周年を迎えた平成二十年度に創設された詩のコンクールです。

詩の創作活動を通じて、本市の文芸振興、創造性豊かな青少年の育成、さらには新たな才能を発掘したいという新川さんの思いは受け継がれ、今年も市内在住・在学の小・中・高校生から、2，444篇という創設以来最多の応募がありました。

その中から、新川和江賞（最優秀賞）に、湯本有紗さん（結城南中学校2年）の作品「おばあちゃん家」が輝き、優秀賞には12人、優良賞には28人が選ばれました。

式では優良賞受賞者による「花の名」の群読、小林栄市長からの賞状の授与のあと、新川和江賞・優秀賞受賞者による受賞作品の朗読が行われ、最後に選考委員長である詩人武子和幸さんが、作品の講評とともに受賞者へメッセージを送りました。

未来をひらく子どもたちへのメッセージ

武子選考委員長は、講評の中で「どの作品も、それぞれ自分の毎日の生活や経験を見つめて、心の中でじっとあたため、ことばに変えていることが素晴らしいです。」「発見した新しい世界が丁寧に表現されていて、感動しました。」と話され、新川和江さんの詩にもふれながら「どんなに小さな経験でも、心の中に入れてあたためておくことが大事、それがことばになり詩になっていくものです。これからも詩を書き続けてください。」とメッセージを送りました。

新川和江賞を受賞して

新川和江賞を受賞した湯本さんは、「こんな素晴らしい賞をいただけると思っていなかったので、とてもうれしいです。これからも日常のさまざまなことに目を向け耳を傾け、たくさんの詩を書いていきたいです。」と喜びの気持ちと抱負を述べられました。

新川和江さんプロフィール

昭和4年結城郡絹川村（現結城市）小森に生まれる。結城高等女学校時代に、下館（現筑西市）に疎開してきた詩人西條八十と出会い、指導を受ける。昭和35年「季節の花詩集」で第9回小学館文学賞を受賞、その後室生犀星賞、現代詩人賞、丸山薫賞など数多くの賞を受賞し、その間日本現代詩人会理事長、会長を歴任。平成12年、勲四等瑞宝章を受章。平成13年、結城市名誉市民、平成16年、ゆうき図書館の開館に際し名誉館長に就任、現在に至る。

武子和幸さんプロフィール

昭和13年東京都に生まれる。茨城県日立市で育ち、茨城大学卒業。詩誌『白亜紀』同人。作品に『蛞蝓の夢』、『イェイツの影の下で』、『アイソポスの蛙』などがある。

（一社）日本詩人クラブ元会長。茨城県芸術祭文学部門実行委員長。茨城新聞「詩壇」選者。

平成30年度から「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」選考委員長に就任。

新川和江賞（最優秀賞）

おばあちゃん家

結城市立結城南中学校　二年　湯本　有紗

私のおばあちゃん家はおっかない
歩くと床がみしみし鳴るし、
風が吹いたら窓や玄関がガタガタ鳴るし、
二階は真っ暗でたくさん人形が
置いてあって何だか気味が悪い。
だから私のおばあちゃん家はおっかない。
だけれど、おばあちゃんはそれを家の歴史だと言う。
そして思い出、証とも言う。
おじいちゃん、おばあちゃん、家族でそこで過ごした
思い出、そこに住んでいた証。
そしてまた、この家が生きているからだとも言う。
床や玄関、窓の音は家の呼吸であると。
それでも、やっぱりおっかないんだよなぁ

選評

今の明るい家と違って、むかし作られた家は、薄暗くて、恐ろしい感じがしますね。床もみしみしして、階段を登って行くときなど、思わずドキドキします。湯本さんのおばあちゃんの家では、二階の部屋には古いお人形さんが置かれているのですね。光線の加減で顔の表情が変わったりして、ぞっとすることもあるでしょう。

でも、とても心を引きつけられますね。その家は、湯本さんが生まれるずっと前から、人びとを守ってきました。おばあちゃんがいっているように、たくさんの喜びや悲しみや大変な出来事を乗りこえて生きてきたひとびとの証、歴史を抱いてそこに立ち続けてきたのですね。湯本さんがたくさんの思い出を持って生きているように、その家も生きているのですね。湯本さんがじっと耳を澄ますと、自分の血につながる人びとの息づかいが聞こえてくるでしょう。その息づかいが詩のリズムになって私たちにも聞こえてくるようです。

この詩のすばらしさは、古い家のこわい印象だけで終わるのではなく、それを、生き物のように記憶を持っているという考えにまで高めているところにあります。

（武子和幸）

問 ゆうき図書館｜☎34-0150